

登録コード	L2130200	開講年度	2026				
担当教員	氏岡 真士			副担当			
授業科目	中国語学・中国文学特論Ⅱ						
英文授業名	Chinese Linguistics & Literature: Lecture Ⅱ						
授業タイトル	中国語学・中国文学特論						
単位数	2	対象学生	2－4	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・3時限
講義室	人文第3講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前カリ対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力			⇔	能動的に受講することによって、人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力を身につけることができる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降カリ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につけている。【思索力・受容力・批判力】			⇔	能動的に受講することによって、人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力を身につけることができる。		
	【2023年度以降カリ対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身につけている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】			⇔	能動的に受講することによって、必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力を身につけることができる。		
授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	今期は、近体詩の韻律と中古音を中心に学んでゆきます。						
授業計画	1. はじめに 2. 韻字・韻目・平仄 3. 子類特殊形式 4. 丑類特殊形式 5. 対句・同字重出 6. 拗体・四声八病 7. 『切韻』『広韻』と平水韻 8. 反切・小韻・系連法 9. 『韻鏡』と三十六字母 10. 唇音（幫滂並明・非敷奉微）・舌音（端透定泥・知徹澄娘）・牙音（見溪群疑） 11. 齒音（精清從心邪・照穿牀審禪）・喉音（影曉匣喻）・（半）舌（半）齒音（來日） 12. 十六撰（通江止遇蟹臻山效果仮宕梗曾流深咸） 13. 中古音の音価 14. 上古音 15. おわりに」						
成績評価の方法	平常点（毎回の授業への参加度。次項および「履修上の注意」等参照）。						
成績評価の基準	1. 授業への入念な準備 2. 準備の成果を反映した朗読や内容理解 3. 積極的な参加 およそ以上の諸点を等分し、達成できた度合を合算して、総合的に判定します。						
事前事後学習の内容	1. 上述の諸点に留意しつつ日頃から予習し； 2. 授業によって必要事項を明確に把握し； 3. それを次の予習に生かすことが、すなわち復習です。						
履修上の注意	毎回の積み重ねが、あなたの実力と評価の双方につながります。 予習として、教材の中国語や日本語が、自信を持って朗読・理解できるようにしておくこと。 受講希望の場合は、遅くとも開講初日の三日前までに、念のためムードル（eALPS）で最新情報を確認し、必要な対応を行なっておいてください。						
質問、相談への対応	平日の日中できるかぎり随時、歓迎します。詳しくは授業で。						
教科書	プリント等を利活用します。						
参考書	授業中に随時、紹介します。						